

# 「おだやかさ」と「激しさ」 2つの顔を持つ『揖斐川』。

岐阜県西部に位置し、福井県との県境の冠山(標高1,257m)に源を発する揖斐川は、濃尾平野の最も西側を流れて伊勢湾に注ぐ幹川流路延長121km、流域面積1,840km<sup>2</sup>の一級河川です。大垣市を中心とする産業、交通が高度に発達した重要地域を流れ、長く地域の経済や生活、文化を育んできましたが、地形的に台風等による洪水被害が多く発生し、生命や財産をおびやかすという、常に相反する二つの顔を持った川として、長い歴史の中で地域と関り続けてきました。



木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)のなかでも揖斐川は、上流に降る雨がとて多く、しかも川が急勾配なため、昔から「四刻・八刻・十二刻」といわれ、木曾三川のなかでも最も早く出水し、洪水を起していました。

しとき はつとき じゅうにとき  
**四刻・八刻・十二刻**  
雨が降り始めてから洪水になるまでの時間が、揖斐川では四刻(約8時間)、長良川は八刻(約16時間)、木曾川は十二刻(約24時間)かかるという古くからの言い伝え。  
出典:『日本の川を調べる 4東海・近畿の川とくらし』(理論社)

## 死傷・行方不明者最大級の大災害 伊勢湾台風



**昭和34年9月**  
和歌山県潮岬に上陸した台風15号は、低気圧と激しい風による海面上昇が驚異的な高潮を発生させ、伊勢湾一帯を襲い、大災害をもたらしました。

## 大出水からまちを守った横山ダム 台風第6号



**昭和50年8月**  
揖斐川の万石地点(横山ダムより約40km下流)では、堤防の計画を上回る水位を記録。この時、横山ダムの洪水調節により河川水位を低下させることができました。

## 近年まれに見る大出水 台風第6号



**平成14年7月**  
中部・関東・東北・北陸地方などに多大な被害をもたらしました。揖斐川の万石地点及び牧田川の烏江地点では、計画高水位を上回る近年まれに見る大出水となりました。

## 東海地方に大きな被害 台風第23号



**平成16年10月**  
東海地方で総雨量が300mmを超え、各地で浸水被害が発生。中部地方の一般被害は、死者7名、行方不明2名、負傷者43名等、大きな被害をもたらしました。

### 残したい水害の記憶 / 長谷川 千代子さん (岐阜県海津市平田町)



長谷川さん

昭和34年8月12日に多芸輪中の養老町根古地で牧田川の堤防が切れた際、私の父は水利組合で仕事をしてたのですが、『この辺りは下(下流)だから、すぐに水は来ない。まだまだ片付けをしていなさい』と、消防団が早々にみんなを避難させているさなか、畳を上げてから家を出ました。後になって、『あそこの家だけ畳が助かって良かったな』と、うらやましがられたのをよく覚えています。その約一ヶ月後の9月26日が伊勢湾台風です。そろそろ水が引いた頃なでと、みんなが家に帰って片付けを始めた矢先にまた“ドーン”と水が入ったものだから本当に気の毒でした。『早く帰らない方がよかった』とみんな泣いていましたよ。

昭和51年9月12日に長良川の堤防が切れた時(安八豪雨)には、親戚や知人が集まってきて『水が来る前に上げ仏だんを上へ上げよう』ということになりました。屋根裏にある滑車を使って仏だんを2階に引っ張り上げるのですが、重い仏だんがスルスルと上がるんですよ。結局、その時は水に浸かりませんでしたけど、その巧妙な出来映え、先人の知恵に思わず合掌しました。

この家は過去に3回建て替えています。明治24年の濃尾地震で壊され、地震にも倒れない丈夫な家をと建て替えた家は、明治29年の大水で流されてしまいました。もう贅沢はできないと古木も使った継ぎ接ぎの“ぼっこ”が今のこの家です。大水と一緒に流れてくる流木から屋敷を守るため、周りにはたくさん木が植えられていました。水屋の脇には大水の時、舟を結わえておけるよう真っ直ぐな木が植えられています。ご先祖様が大水から守るために一所懸命に尽くしてくれたこの土地を、これからも大切に守っていかねばならないと思っています。

**水利組合(すいりくみあい)**とは  
明治時代に農業用の灌漑や水害防止等の事業を行う目的で、全国各地に設立された組合。昭和24年に一部組合が改組され、農業水利関係は土地改良区へ移行した。現在残っている水利組合は、水害予防のための組合であり、多くの場合ボランティア的に地域の水利秩序の維持に取り組んでいる。



昭和34年8月12日牧田川決壊による浸水被害の様子(中日新聞社提供)



上げ仏だん



長谷川さん宅の「水屋」

濃尾平野の西の大垣市付近から南側は、海拔10m以下の低地が広がっています。そして、ここに木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)が集まってきます。まだ堤防が整備されていなかった時代には、少しの雨でも洪水被害が発生し、人々を苦しめてきました。

- 横山ダム流域**  
横山ダムに雨や雪などの水が流れ込む範囲。
- 洪水氾らん危険区域**  
揖斐川の氾らんによって被害を受ける危険性のある地域。